

私の一生の憧れ

6月25日の新聞のコラム「この人」に、医学博士号を取得した62歳男性が出ていた。

職業を持ちながらの博士取得者は、たまに新聞記事に出る。

研究者を目指すためのストレートドクターも素晴らしいが、職業を持ちながら、ドクターを取得する方も素晴らしい。

職業と論文テーマが一致する論文ドクターは、職業の成果として、業績が認められるのかも(?) けれども、課程博士ともなると、単位取得、査読論文ノルマ、学会発表ノルマ等あり、大変である。

ドクターともなれば、基礎学力はさることながら、高校生のような点数を上げて合格するような学力では全く通用しない。

新奇性があるか、論文として成り立つか、そのための研究計画はしっかりできているかなどなど、いわゆる「勉強できるね」的な学力では通用しないファクターが伴うのである。

このコラムの男性は、柔道整復師として開業し、大学で後継者を育成するための講師も掛け持ちしている。

55歳で人体細胞に関する基礎研究で修士取得、その後博士課程へ進学し、特別な細胞の振る舞いに関する研究で博士を取得した。

職業も研究も人体に関するが、職業がそのまま研究につながるものではなく、職業と研究の両立はさぞ大変だったと思う。

しかし、私は、若いころから、職業を持ちながら、興味あることを深めることを素晴らしく思い、今でもこんな生き方に憧れを持つ。

50歳過ぎると、今現在の仕事も大切に業績を上げる必要もあるが、あと10年もすればリタイヤしなくてはならない。人生が終わるときに納得して終わるために、興味あることを深めていくことは大切だと考える。

このような生き方をしてみたいものだ。